

7つのゼロの7つとは
寝かせきり・オムツ・機械浴・脱水
誤嚥性肺炎・拘束・下剤ゼロです



施設長 坂野悠己

勘違いされやすいのですが、ゼロにする事を目的とはしていません。あくまで、**我々介護の目的は、介護が必要な方に最期まで気持ち良く、主体的でその人らしい生活を過ごしてもらえるように支える事にあります。**7つのゼロは目的ではなく、そのための仕組み、ツールに過ぎません。数値上のゼロを目的にするのではなく、**寝かせきり、オムツ、機械浴が当たり前になっているこの業界において、介護をする上での本来の方向性を示すために、あえて7つのゼロ、という振り切ったケア目標を掲げているのです。**大事なのはゼロにする事ではなく、**ゼロを目指していくような方向性でご利用者と関わっていく、という過程であり、関係性なのです。**

ではなぜこの7つを選んだのか。

1 つは、**起きて生活する、トイレで排泄する、普通のお風呂に入る、起きて口からご飯を食べる、**というのは多くの方の生活の基盤になっているからです。しかし、実際に高齢になったり、認知症になったり、介護が必要になったり、施設に入居している過程でその基盤が失われていく、**当たり前でゼロだったものが、ゼロでなくなっていく、**という現実があります。ただし、これらの生活の基盤の喪失は、決して本人が望んでそうなったものではありません。だからこそ、本人が望んでなったわけじゃないこの**7つに対して、その基盤を取り戻す、**という事が最低限の介護の役割だと思うからこの7つをゼロにするという方向性を打ち出しました。

2 つ目の理由は、**自分のされたくない事は他人にしない、**という福祉の大原則によります。介護施設に自分自身が高齢になって入居したとして、**どうゆう状況になりたくないか？**というアンケートをとれば、上位に大体この7つはあがってきます。自分だったら1日中、寝たきりになって、天井を見つめている生活にはなりたくありません。オムツの中にうんちをするのは嫌です。少し動くからといって紐で縛られたりベッドや車椅子から動けないように固定されるのは嫌です。機械のお風呂で工場のベルトコンベアを動くように扱われるような入浴は嫌です、等々。想像すればこの辺は大体あがってきます。しかし、自分がされたくない事であるにも関わらず、介護業界はそれがスタンダードになっていたりする面もあるのです。なので、**自分だったらされたくない事を出来るだけ減らす、ゼロに近づける、**ためにこの7つを選びました。

最後の理由は、**そこで働く職員に道標が必要だと感じた**からです。どんな施設にも理念はあり、その理念は、非常に抽象的な言葉で作られています。

「尊厳を尊重します」「笑顔を大事にします」「寄り添います」等々。
しかし、どんな崇高な理念も、実際やってる事が違っていれば何の意味もありません。問題なのは、理念と実践を繋ぐ、「具体的な目標」がない事なのです。
だからこそ、**理念と実践との間に必ず具体的な目標をたてよう**と考えました。**7つのゼロなら道標を示す事が出来ます。**寝かせきりに、出来る限りしない事が尊厳を尊重するという事ですよ、オムツに出来る限りしない事が尊厳を尊重するという事ですよ、拘束を出来る限りしない事が尊厳を尊重するという事ですよ、と。

この3つの理由から7つのゼロはスタートする事になりました。